

土方コンミューン〃ももたろう建設〃

はぐまな おゆき

我らの土方コンミューンは、全員が責任を分けあうというのが原則なんで、その時、その場の現場の責任者（渉外係）はおるが、いわゆるリーダーとか親方とかはおらん。で、誰が報告するゆうて、義務も権利もないが、我がちよつとばかり書いてみようちゅう気になったんで、個人の私的見地からの勝手な感想を書いとる。で、この文の内容は我にしか通じるところもあることを前置きしとかしてえナ。

一　そもそも

土方コンミューン〃ももたろう建設〃が始まるずうつとずうつと前から、メンバー個人個人にはなんらかのコンミューンとのくされ縁があるけどナ、ま、それぞれ荒野の七人的な存在なんで、前科は前略としますワ。

土方コンミューンを作ろじゃないかと、一九七二年十月末頃、フーテンのシキと、自称ドクター、他称精神科患者のクマと、居直りのサトの三人が、京都の土木会社に入って、殺される思いで土方をしたが、どうも土木一本はしんどすぎてあかへんし、又請負うには元金がかかりすぎや。

一九七三年一月から、ふとつちよのダチとシキが大阪府の堺市の土方コンミューンへ見習いに入り、二月からそれにクマと徳島の野育ちのゴリが加わり、忙しい時にサトが手助けにきてくれたんや。おれらのコンミューンの出足は、堺の土方コンミューンに負うところが多いナ。

二　堺の土方コンミューン

二年前に、かわらいさんと石ヤンか二人で仕事を始めて、今やダンブ、トラック、乗用車に建築資材と若い働き手を持ち、バリバリ頑張つとるグループとなつとりますワ。

大体、山岸会関係の人がシンパサイザーが主やが、メンバーは多種多様で、未成年者から七十才の白毛のじいちゃんまでおって、仕事も生活も面白いこと、保証するワ。石崎家族とかわらい家族は、コンミューンの出費でアパート住いで、他の者は泉北ニュータウンに共同生活してるんや。おれら京都グループは、近くの六畳一室に五人が雑居なんで、けたたましかった。道具と家具と作業服とゴミと人間がごもくめしなんで、一番忙しい時は、一週間も毎日十二時まで連続残業して、泥が一センチもついた作業ズボ

ンのまま、帰るとフトンの上にボタン、スー。又朝は七時に起こされるんで、フトンの上をホウキでもって砂をかきおとさねば、寝もすわれもできんで、誰かがカニがはってあったとか言ってた。

仕事はほとんど請負いやが、常用も時々ある。内容は、重量鉄骨、軽量鉄骨建設の基礎工事から木造家屋、ブロック壁、の基礎工事、ガレージの基礎工事までで、半分土方、半分大工。かなり技術も必要やけど、やる気さえあれば、数ヶ月で一通りの段取りまでできるようになれるが、ボケーといわれることだけやとったんじゃあ何年たってもシロウトと同じなのは、どこの世界でも共通じゃなからうか。ひやかし加減の、見物加減の参加は厳しくお断りで、少くとも一ヶ月以上働くことを、堺のコンミューンは参加資格としとると聞いとるデ。

一九七三年三月から四月初めにかけて、おれら京都グループは、堺グループと相談しながら、二十万ぐらいのと四十万ぐらいの仕事をつ請負った。われらシロウト五人は、本を読みながら毎日、夜十二時頃まで、ああしよう、こうしようと仕事のやり方で話し合いながら、結局判らず結論がでん場合は、夜遅く石ヤンの所に聞きに行くといった具合で、ぎくしやぐしやしながら一応独自でやりとげて、堺から技術と勇氣と相当量の資材をわけてもらって京都に生還。ごつつあんデス。

三 資金は

金はよそから借りたり、個人から多額カンバしてもらうとかは全くないという京都的気の小ささ。メンバーは余った給与をもも

たろう建設に預金してるという型でプールし、今ところ、資材数十万、ダンブ数十万を現金で買ったので、その減価償却が、約一年で終るまで、その預金を使っとる。一年たてば、メンバーに対しても借金は一切なくなるハズ。資材置場は宇治田原町にメンバーの家族の名義の土地を借用しとるんや。ダンブ以外に、道具がいっぱいあった軽四のバン、ボンタ号と、クマの家族用のミニカが一台あるんで、ま、仕事になる。

四 わけまえは？

全収入から減価償却分と材量費と諸経費を引いたものをメンバーの延出勤日で割って、山わけというのが原則なんで、結果として車とか道具とか資材が共有物として残り、それ以外にも土地とか家とか、焼物の釜とかを買う話もあり、それは又目的別に有志がプールし合う予定や。

五 目的は

目的はなんかって？ 目的は、今から入ってくれるあんたが作るんとちがいまっか？ 一人一人がもつとも自分に適した食い方、着方、住み方ができるように協力し合うのが言ってみれば目的で、どん欲に目的を追求しなきゃ、個性が消えてコンミューンがたいくつな、面白くないものになると困るしナ。ももたろう建設はコンミューン内の生き方、考え方で最大公約数みたいなのが出るのを嫌って、むしろ個々又は小人数単位の試行錯誤の場ですナ。デモに行くやつも、三里塚に行くやつも、キャンプに行くやつも、文献センターに行くやつも、寝とるやつも、自然食を喰とるや

つもおりますワ。

ペン・ジョセフ流に言えば、ももたらう建設は仕事に関してはモブツ、シッフイみたいな完全な自主管理で、衣食は一部だけキブツ的に共同で、住いの方は借家や、アパートの借室で、どっぶりと資本主義のワナにかかつておる状態ですワ。

理論はあとから追いかけてくればいいと思っとるんで、しちめんどうな理屈は抜きにして、とにかく個性が生きる仕事を通しての人間関係を作ろうとしてるぐらいしか、今の所、言いようがありませんワ。クロボトキン流に「都市、土木、コミュニン」という題で社会科学の考察が数年後に出来ましたらおなぐさみ。

×

×

×

弥栄之郷コミュニンで

僕が最初に見たコミュニンはニューヨークランド非暴力実行委員会会のポストンの原子力潜水艦基地の近くの反戦のためのコミュニンでした。自連の連中がコミュニン運動をし始めたというのになにかしてやろうとして、弥栄之郷へ、材料や家具運びで三度ばかり立寄りはしましたが、その程度では、島根の山奥の生活のきびしさはとても想像できません。けど、自分の村を自分で作っているという現実はうらやましいばかりです。川で魚をつかまえたり、屋根の上や床の下に卵を探しにいたり、田のあぜを作ったり、そこではほんとうに楽しい労働をしました。けど、なんとなく、もの足りなさを感じ、すぐ飽きてしまいそうで、農村に入る勇氣はでません。

まず喫茶店がないこと、読みたい本がなかなか手に入らないこと、そしてとりわけ寂しがりの僕に話し友達が少いのは我慢できそうにもありません。農村と都市のコミュニンの長所短所の分析はさておき。やはりたまには弥栄之郷に行きたい気があるので、都市コミュニンと農村コミュニンとに有機的な結合があれば文句ないわけです。

なぜ土方を

私的には、第一に三里塚で足を傷めたので足をきたえたくって、第二に職場でちやほやされる医師という職業に辞易してたからですが、仲間にとっては、土方ならコミュニン作りに資金が割に早く作れる、肉体労働が好きなのほうで、そして誰でも、ほぼ平等に参加できるなどが理由です。

やり始めて

今、九名も仲間がいるので、ローテーションを組んで割に仕事は楽ですが、請負い仕事が多いと、死ぬほどしんどくて、本を読んだり書いたりする気力は全くなりません。今世間で普通の週五・六日の肉体労働そのものは人間を疎外している点では、はっきり「悪」だと感じました。親方が、残業しろとか、小雨でも出てこいとかいっても、そこところは、仲間の力で、きっぱり断ってしまう。これから、元請けの圧力の元で、どれだけわれわれの自主管理を貫徹し、その思想を拡めることができるかが問題です。